



本クラブは、鹿屋体育大学の有する知的・物的資源を活用し、地域スポーツの発展に寄与するために平成18年に設立した総合型地域スポーツクラブです。「体操」「テニス」「サッカー」「陸上」「貯筋運動」の5つのサークルで活動しています。

本クラブは教員だけでなく在校生も指導にあたり、学生は指導力の向上を、参加者は競技力の向上、健康寿命の延伸や仲間づくりなどを目的としています。地域住民が自発的にスポーツを楽しみ、各自の技術レベルやニーズに応じた健康・体力の維持増進を図ることで、近年における体力・運動能力の低下という問題の解決や、交流による地域の活性化などに寄与します。

今後は、鹿屋体育大学の施設などを活用しながら、地域のスポーツや健康づくりのための指導者養成など「スポーツのまちかのや」を創り上げるべく活動を充実していくことを目指します。



スポーツパフォーマンス研究センター

平成27年から使用開始された研究センター。走る際に地面にかかる圧力を計測する「50mフォースプレート」や、モーションキャプチャ、ハイスピードカメラなど最新鋭の設備が備えられた屋内研究施設で、選手のパフォーマンス向上や指導者養成を行う。



本センターは、競技力の向上を目的とした施設で、様々な機器を用いて測定を行い、科学的な視点からスポーツの研究を行います。計測した圧力情報を視覚的に分かりやすく表示するシステムや、投げたボールの速度・回転数などが瞬時に表示され、投手がその場でデータを確認できる大型モニターなど、研究者のみならず選手にもフィードバックしやすい環境が整っています。そのため、学内のみならず学外からの測定希望も多く、プロスポーツ選手も測定のために来鹿するなど本センターの実効性が認められ、令和元年度の年間利用者数は1万人を超えました。また、市が受け入れたスポーツ合宿に伴う測定や、企業のスポーツ製品の能力試験など、産官・学連携の取り組みにも力を入れていきます。

今後は研究のさらなる推進はもちろんのこと、今までも一層アスリートのパフォーマンス向上に力添えができる施設になるように取り組みたいと考えています。

鹿屋体育大学内にある研究施設であり、スポーツを科学的に分析する施設、通称「SPセンター」。一体どのような施設なのでしょう。

NPO 法人 NIFS スポーツクラブ



【NIFS スポーツクラブ陸上サークルの活動】

中学生から70歳代までの方が一緒に短・長距離走などの練習に励んでいます。幅広い年代で交流できるため、クラブの雰囲気はとてもよく、鹿児島市内から通う人もいます。また、教え合ったりすることで参加者同士の絆が深まっているようです。学生指導スタッフも多くの学びを得ています。



NIFSスポーツクラブ 陸上競技担当

きんたか ひろふみ
金高 宏文 教授

広島県出身。筑波大学大学院を修了後、平成元年に鹿屋体育大学の助手に就く。平成20年から開始した陸上サークルを担当し、「かのや健康・スポーツクラブ」のジュニア陸上とも連携して活動している。



スポーツパフォーマンス研究センター長

まへだ あきら
前田 明 教授

宮崎県出身で鹿屋体育大学の第1期生。同大学院修了後は、秋田大学医学部助手や東京の国立スポーツ科学センター職員などを経て、平成14年に同大学助教授となる。